

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第9回「子供は大人を越える」

後藤滋樹 (goto@ntt-20.ntt.jp)
日本電信電話株式会社
ソフトウェア研究所

【ラジオ少年の夏】

私は少年時代から秋葉原を探検していた。いわゆる「ラジオ少年」である。毎年、夏休みになると部品を買いに秋葉原に行っては、オーディオアンプを製作したり、自分のアマチュア無線局の送信機や受信機などを自作していた。いったん完成しても、すぐに改造したくなる。夏休みは毎年エレクトロニクス工作で一杯だ。おお、その合間に宿題もやらなくては...

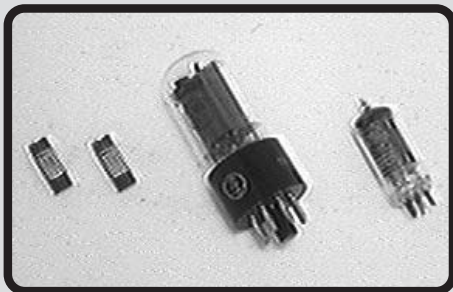
冷静に考えてみると、子供の身分では、夏休みよりもクリスマス+お正月のほうがお金を持っていたら。それに昔はクーラーも普及していないのだから、猛暑の中で熱い半田ゴテを振り回すのは快適とはいえなかった。それでもなお夏休みに製作したのは、やはり時間が自由になったからだと思う。ラジオ少年なるものは、部品を集めて自分でアンプや通信機を組み立てる。これには相当な日数がかかる。夏休みならば、まとまった時間が確保しやすい。

【子供のほうがハイテクだった時代】

さて読者の中には次のような疑問を持つ向きもあるだろう。「どうして手間をかけて自作するのか、製品を買ったほうが簡単だろうに」それには明快な答えがあるのだが、現代では理解されないういかもしれない。実は、その当時には自作したほうが市販品よりも性能の良いものが作れたのである。

たとえば市販のアンプは6BM8という真空管を使っていて17Wの出力がある。これに対して自分で6BQ5を使えば24Wが出せる。アマチュア無線の機材にしてもTRIO（現在のKenwood）よりは自作のほうが高性能だという時代である。

これは、子供にとって実に愉快な時代だったと思う。秋葉原で買うものが製品ではなくて部品であるところに夢があった。この真空管は、アンプにも使えるが送信機の変調回路でもよい。そのような夢のある部品を大切に抱えてラジオ少年は秋葉原から帰途につく。



【子供が大人を越えないと人類はジリ貧】

秋葉原は日本に特有の街だといわれるが、私の子供時代の思い出に似た話が（偉い人なので並べるのも恐縮するが）物理学者のファインマンの本に載っている。[参考文献]の最初の章「考えるだけでラジオを直す少年」を読むと米国にもラジオ少年の仲間がいたことがわかる。

私自身は大人になっても、あまり社会の役に立つようにはならなかったが、私のラジオ少年仲間の先輩や友人、後輩たちは文字通りに日本の電子立国を支える企業に入って活躍したと思う。その結果が現在の秋葉原なのであるが、さてこの夏の秋葉原を歩き回る子供たちは果たして愉快地暮らしているのだろうか。

昔に比べると店も商品も格段に立派になった。LSIなどは部品とはいえ、昔でいえば巨大装置に匹敵する機能と性能を持っている。しかし、子供の夢がその分だけ大きくなっているようには見えないのだ。貧しい部品のほうが自由度があり、その自由度が少年の夢だったのだろうか。真空管は手で握るとガラスを温かく感じる。LSIを握るとピンが痛い。

【一番良いものを子供に】

もう真空管は絶滅してしまったので、いまさら子供に真空管でアンプを作るように勧めても、そこから夢は育たない。懐古趣味は大人にだけ意味を持つ。

結論をいえば、現在の大人である我々が一番良いと思っているもの、一番価値のあると思っているものを子供にあげてはいけないのだと思う。それはインターネットだろう。子供がインターネットを使って大人を越えることはできるとし、またそうならわれないと人類は困るのだ。

子供とインターネットを考えると、すぐに18歳未満問題（子供に見せたくないサーバー）とか、英語の情報では子供は楽しめない、という問題点が指摘される。これは解決していかなくてはならないし、その方策はある。細部の問題に目を奪われて大きなチャンスを逃さないようにしたいものだ。

昔のラジオ少年は自分たちが一番ハイテクだと思って秋葉原を闊歩していた。しかしそのような夢を与えてくれた仕組みは、やはり当時の大人が準備してくれたものなのだと思う。僕たちはハイテクという言葉も知らずに、ただ愉快地秋葉原を探検していた。

[参考文献] R.P. ファインマン著 大貫昌子訳 「ご冗談でしょう、ファインマンさん」
岩波書店 1986年 (ISBN4-00-005363-9)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp